

# さまざまな人が支え合う お互い様の地域づくり 事例集

## 竜王町

- 居酒屋おいで
- 林地区「りんりんちょボラ」

## ■活動内容

- ・主に60歳以上の男性を対象に、月に一度、土曜か日曜の夜に、会費1000円で、作った野菜やお酒、釣った魚などを持ち寄り、いろんな話題でみんなでワイワイ交流、支え合いのベースをつくっています。
- ・交流している中で、地域に役立っていこうという機運が生まれ、地域の人たちの困りごとや要望に対して、自分たちでできることをやってみようと活動もしています。
- ・これまでの実績として、自治会館のクーラーそうじ、自治会館や個人宅の草刈、大型ごみの地域一斉回収時の運搬ボランティア（一人では運べない家庭などに対して）、自治会館駐車場でのかまどベンチづくりなど。年に一回の地域区民フェスティバルにも有志が協力し出店、さんまや焼き鳥を焼きながら、その活動を広報しています。



## ■団体名

居酒屋おいで

## ■参加者

主に60歳以上の男性 まかないサポート役の女性たち

■活動拠点  
連絡先西川自治会館  
世話人 森下幸男（TEL:080-5764-6806）

## ■活動のきっかけ・実現までの経緯

‘地域の福祉’の場面の担い手は女性がほとんどで、男性は自治会の役でもなければ自発的には出てきません。それはこれまでの‘福祉’が主におもてなし的なものであったから。これからのますますの高齢化や地域の支え合いを考えたときに、男性の活躍の場は多いです。また、自分自身が地域で交流を持っているかどうか、お互い様の助け合いのベースにもなります。

このような思いを持って周りを見回すと、定年退職後や一人暮らしの男性など、あらためて地域での交流を結びなおしたい人たちがいます。近所にたまり場になるような飲食店もありません。みんながお互い様の気持ちで、気楽に出てこれる場を作れたら…このような思いは女性から発案。これに共鳴した有志で「居酒屋おいで」を始めました。



## 利用者さんの声

・大型ゴミの回収では、忙しくて持っていけなかった、軽トラックもなく運搬できなかったところ、とても助かったという声をいただいた。

※居酒屋の参加者の声としては同時に活動者でもあるため右に掲載。

## 活動者の声

- ・心置きなく話す機会もあまりなく疎遠になりがちだけれど、コミュニケーションがとれるようになった。
- ・地域内の新興住宅地にいると旧集落の人との接点を作りづらかったが、この集まりで親しみが深まり、老人クラブの役を担うなど積極的に関わるようになった。
- ・自治会の役割も回ってくる中で、孤立することなく関わっていける。
- ・毎回の持ち寄りも楽しみだし、次回の集まりが楽しみだ。

## ■活動に対する思いや目標、継続するノウハウ

- ・地域の支え合いの元になる交流は「出てきて下さい」というアプローチではなく、「行きたくなるような」場面作りが大切。
- ・特に男性は女性と違って、個人で地域活動するでもなく、仲間づくりが進みにくいです。楽しみながら地域の人と仲間づくりをするところから始めていけるようにしています。それには「食べる時間の共有」は最適。一人ではなくみんなでワイワイ食べるのは楽しいです。自分たちで場をつくるというところを大切に、後片付けもきっちり。また女性の協力や段取り力は欠かせません。ともに楽しむ方向で。
- ・酒を飲まなくても、いろいろな話題が行き交うので十分楽しめています。酒はきっかけであって目的ではありません。
- ・サポートをしている女性たちから地域の話題なども提供し、力を出そうという雰囲気づくりをしています。

■活動内容

- ・おたっしや教室 毎週水曜日 80歳以上 9:30～11:30
  - ・お出かけ支援 おたっしや教室の日に平和堂フレンドマートまで移送
  - ・りんりんカラオケ おたっしや教室のない水曜日 公民館
  - ・おしゃべりカフェ 月1回公民館でどなたでも 9:30～11:30
  - ・ひだまり学舎 学びを通しての交流
    - ひよこクラブ 未就園児5人（H30・6開始）
    - りんりん学童 小学生25人 学校がある日 15:30～17:00
    - りんりんそろばん そろばんの練習、宿題、カロムOK
    - りんりんJCB食堂 じいちゃん・ばあちゃん・こども、皆きてね～
- ふれあいカレンダーを全戸配布（毎月、区の評議員さんが配布）



■団体名	りんりんちょボラ
■参加者	区民
■活動拠点 連絡先	林自治会館、ひだまり学舎

■活動のきっかけ・実現までの経緯

平成29年3月に開催された自治会総会において、女性区民から「子育て支援や高齢者支援」を活動に加えるようにとの意見が出され、承認されました。高齢者の物損事故が多発、また区内の高齢女性が見通しの良い交差点で出会いがしら事故で死亡された現状を踏まえ、町の新規事業「竜王町地域支え合い仕組みづくりモデル事業」に応募し、取り組みがはじまりました。

かねてより地域活動が活発に行われていて、区民運動会と区民文化祭を融合させた「大昼食会」は20年の歳月を重ねています。役場OBを主体とした福祉委員会、社会教育委員会は若者の登竜門として機能しており、「りんりんちょボラ」はそのような人と人がうまくつながって出来上がり、自治会を通して活動が広がっています。



利用者さんの声

今はどうしても時は車に乗っているけど、5年後には、運転はむりやと思う。その5年後のためにしっかり事業化してもらえるように、利用実績をつくっている。

活動者の声

- ・町から言われてやるのではない。
- ・新規事業の趣旨を踏まえて林の役に立つことを模索してみよう
- ・アンケートや先進地研修、知恵の絞りだし会議の開催 …以上の基本方針を確認し、区民にも周知

防災の近所活動で、弱者の車での避難移送訓練等を実施したことは、その後の支え合い事業の円滑な展開につながった。

■活動に対する思いや目標、継続するノウハウ

なんでやるの ⇒ そこに待つ人がいるから という単純な構図。

大規模なイベントをやるでもなく、楽しくスマートに多くの方々の支援が集まるように「りんりんちょボラ」の精神、「みんなでちょっとずつボランティア」を実現できるよう意識して対応しています。

こども食堂の野菜提供者も大切な「りんりんちょボラ」さん！食堂にご招待。おでかけ支援の車中は日頃の不満を聞いてもらえるストレス解消の場に・・・たぶん「楽しい」がキーワードであろう。

お互いさんやんか・・・と言われても、いつかお返しをとお考えるのが常人！その気遣いをしないための手法が寄付文化の醸成。おでかけ支援で100円、JCB食堂で200円を目安に寄付すれば、しがらみなし！